

平成23年度「福井新々元気宣言」推進に係る政策合意の実施結果 (平成24年3月末現在)

「福井新々元気宣言」の4つのビジョンを着実に実現していくため、平成23年7月に知事と合意をした「政策合意」の実施結果について、次のとおり報告します。

平成24年3月

健康福祉部長 小林 正 明

I 総括

1 地域の「つながりの力」を活かした支え合い体制の整備

- ・ 高齢者等の支援の必要な方が地域で安心して暮らせるように、見守りネットワークの結成や配食・移動等の日常生活支援サービスの立上げ・拡充、地域住民の交流の場づくりを行う市町を支援し、県下全域で体制づくりを進めました。

2 高齢者が住み慣れた地域でいつまでも生活できる環境づくり

- ・ 在宅での医療と介護の連携の推進や在宅サービス事業者の開設支援等により在宅で生活できる環境を充実する一方で、在宅生活が困難な方のために介護施設を計画的に整備しました。このような在宅と施設のバランスを考慮した対応により、「待機者ゼロ」を再継続しました。

3 質の高い医療サービスの提供と本県独自の食の安全体制の整備

- ・ 地区医師会等を調整役とした在宅医療チームづくりを県内全域で進め、医療と介護のスタッフが症例検討会や研修を合同で実施し、在宅での医療・介護サービスを連携して提供する体制づくりを進めました。
- ・ 全国で初めて県下で統一した市町の受診券の活用をさらに進め、受診機会の少ない小規模事業所への出前検診を実施しました。また、「がん検診受診勧奨センター」を設け、働き盛り世代の未受診者を対象に電話による受診勧奨を開始しました。
- ・ 県内外の医療機関に対する説明会の開催など、陽子線がん治療の普及啓発活動を行うとともに、陽子線がん治療の適用拡大に向けての研究に着手しました。
- ・ 大量調理を行う施設を重点対象として、食品衛生の自主管理制度を普及啓発しました。また、本県独自に作成した生食用食肉の指導要領等に基づき、焼肉店等の監視指導を強化しました。

4 障害者の自立と生きがいの支援

- ・ 障害者就労支援事業所への商品開発支援等を通して、障害者の就労や賃金アップを進めました。また、平成30年開催の「全国障害者スポーツ大会」に向けて、スポーツ体験教室を開催するなど、障害者が様々なスポーツに親しむ環境づくりを行いました。

5 子どもの「自ら育つ力」を伸ばす子育て環境の充実

- ・ 「第二元気な子ども・子育て応援計画」に基づき、すみずみ子育てサポート(一時預かり)や保育料等を原則無料とする「ふくい3人っ子応援プロジェクト」など本県独自の子育て応援を着実に実行しました。また、家族時間伸長運動の普及や「親子遊び塾」の実施、保育士等の指導力向上に努め、子どもの育ちを応援する環境づくりを進めました。

6 子どもに応じた教育支援の充実

- ・ 発達障害児の早期発見とスムーズな引継ぎを行うため、県として評価・引継シートの標準様式を定め、全市町に活用を呼びかけました。また、保育・教育等の各分野が連携した支援体制づくりについて検討しました。

II 「政策合意」項目に係る結果について

- ・別紙「平成23年度 政策合意項目に係る実施結果報告(健康福祉部)」のとおり

平成23年度 政策合意項目に係る実施結果報告(健康福祉部)
(平成24年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

| 役職 | 健康福祉部長 | 氏名 | 小林 正明 |
|--|--------|---|-------|
| 項 目 | | 実 施 結 果 | |
| <p>1 日本のモデル「福井の教育」 ◇ 日本の教育センター福井 ・発達障害の早期発見・早期支援 【部局連携】 発達障害児を保育所で早期に発見し、幼稚園、小学校に引き継ぐツールを開発します。また、保健・保育・福祉・教育の各分野が参加した検討会を開催し、効果的に連携した平成24年度からの支援体制を検討します。</p> | | <p>〔成果等〕 目標を達成しました。 発達障害児の早期発見とスムーズな引継ぎを行うため、県として評価・引継シートの標準様式を定め、全市町に活用を呼びかけました。 また、保育・教育等の各分野の参画を得て「発達障害児支援検討会」を開催し、市町で行うモデル事業や関係者への研修、保育所への「気になる子サポートメールマガジン」配信など、平成24年度から実施する本県独自の支援策について検討しました。</p> | |
| <p>2 すぐれた医療と支えあいの福祉 ◇ さらに高まる医療水準 ・陽子線がん治療の普及 「陽子線がん治療センター」における治療実績を着実に重ねるとともに、県内外の医療機関に対する説明会の開催等により陽子線治療を広く普及していきます。また、対象疾患の拡大や治療効果の向上のための研究を進めます。</p> | | <p>〔成果等〕 目標を達成しました。 23年3月から治療を開始した陽子線がん治療センターが、6月に先進医療の実施機関となりました。 陽子線治療を広く周知し多くの利用者確保するため、医療関係者および一般を対象とした説明会や出前講座を開催するなど、普及啓発活動を行いました。 また、陽子線治療の対象となるがんの拡大に向け、3年計画で新しい治療法の開発に取り組むこととし、治療計画システムや検証を行う機器の整備、先行する施設の情報収集等を行いました。</p> | |
| <p>〔陽子線がん治療センター利用者数 110人〕</p> | | <p>〔陽子線がん治療センター利用者数 115人〕</p> | |
| <p>・がん医療センターの拡充 県立病院の「がん医療センター」において、胃がん、大腸がんに加え、肺がんについて複数の主治医による「チーム医療」を行い、最先端のがん治療を提供します。また、肝臓がん等の「チーム医療」の導入に必要な人材を順次確保していきます。</p> | | <p>〔成果等〕 目標を達成しました。 県民が高水準のがん医療を受けることができるよう、胃がん、大腸がんに次いで、肺がんについて「チーム医療」を実施し、複数の専門医による個々の患者に応じた最適ながん医療を提供しました。 また、来年度から肝臓がんの「チーム医療」を実施するために必要な医師を採用しました。</p> | |

平成23年度 政策合意項目に係る実施結果報告(健康福祉部)
(平成24年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

| 役職 | 健康福祉部長 | 氏名 | 小林 正明 | | | | | | | | | | | | |
|--|--------|--|-------|-----|-------|-----|-------|------|-------|------|------|-----|------|---|-------|
| 項目 | | 実施結果 | | | | | | | | | | | | | |
| <p>・がん検診の受診機会の拡大 県民への普及啓発や全国で初めて全県下で統一した市町の受診券の活用をさらに進めます。 特に、受診機会の少ない小規模事業所での出前検診や、働き盛り世代の未受診者への電話による受診勧奨を行い、検診受診率を引き上げます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>がん検診受診者数</p> <p>胃がん(平成22年度98千人) 107千人 肺がん(平成22年度208千人) 209千人 大腸がん(平成22年度126千人) 147千人 子宮がん(平成22年度79千人) 89千人 乳がん(平成22年度56千人) 73千人 計(平成22年度567千人) 625千人</p> <p>(うち小規模事業所での出前検診による受診者数 2,000人)</p> <p>(うち電話での受診勧奨による受診者数 2,200人)</p> </div> | | <p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>全国で初めて全県下で統一した市町の受診券を活用し、受診率の低い子宮がんと乳がんについて受診機会の少ない小規模事業所での出前検診を実施しました。 また、全国で初めて全県下を対象とした受診勧奨センターを整備し、働き盛り世代の未受診者への電話による受診勧奨を行いました。 平成23年度の受診者数は、前年度に比べ約6万人の増加を見込んでいます。これにより、全体の受診率は3%増の31.7%(平成22年度28.7%)になる見込みです。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>がん検診受診者数(年度末見込値)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>胃がん</td><td style="text-align: right;">107千人</td></tr> <tr><td>肺がん</td><td style="text-align: right;">222千人</td></tr> <tr><td>大腸がん</td><td style="text-align: right;">142千人</td></tr> <tr><td>子宮がん</td><td style="text-align: right;">90千人</td></tr> <tr><td>乳がん</td><td style="text-align: right;">65千人</td></tr> <tr><td>計</td><td style="text-align: right;">626千人</td></tr> </table> <p>(うち小規模事業所での出前検診による受診者数 見込値 2,000人)</p> <p>(うち電話での受診勧奨による受診者数 見込値 2,200人)</p> </div> | | 胃がん | 107千人 | 肺がん | 222千人 | 大腸がん | 142千人 | 子宮がん | 90千人 | 乳がん | 65千人 | 計 | 626千人 |
| 胃がん | 107千人 | | | | | | | | | | | | | | |
| 肺がん | 222千人 | | | | | | | | | | | | | | |
| 大腸がん | 142千人 | | | | | | | | | | | | | | |
| 子宮がん | 90千人 | | | | | | | | | | | | | | |
| 乳がん | 65千人 | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | 626千人 | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>・県内で勤務する医師の確保 臨床研修病院と協力して県内外で病院合同説明会を開催し、臨床研修医の確保を進めます。 また、県立病院に「地域医療研修センター」を整備し、救急医・家庭医や産婦人科・小児科の後期研修医を育成するほか、福井大学に設置した「地域医療推進講座」の教員による出張指導を行うなど、研修医の指導体制を充実・強化します。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>平成24年度の県内初期臨床研修医内定数 (平成21年度 49人、22年度 73人、23年度57人) 60人</p> <p>医師確保対策による医師確保数 10人</p> <p>【チャレンジ目標 11人】</p> </div> | | <p>[成果等] 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>大学卒業後の県内初期研修医の内定者数については、マッチング(一次募集)で59人、その後二次募集を実施し、新たに5人を確保しました。 県内の臨床研修病院と協力した県内外での病院合同説明会を、これまでで最も多い8回(昨年度6回)開催しました。 また、県内出身の医学生を登録し、説明会の案内や県内の医療情報の提供を行いました。 さらに、後期研修の事業をパンフレットやインターネット、医療雑誌等の様々な方法で広報したほか、県外の医師を直接訪問して県内勤務を働きかけ、救急医・家庭医の後期研修医等の医師を8人確保しました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>平成24年度の県内初期臨床研修医内定数 64人</p> <p>医師確保対策による医師確保数 8人</p> </div> | | | | | | | | | | | | | |

平成23年度 政策合意項目に係る実施結果報告(健康福祉部)
(平成24年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

| 役職 | 健康福祉部長 | 氏名 | 小林 正明 |
|---|--------|--|-------|
| 項 目 | | 実 施 結 果 | |
| <p>・ストレスチェックの拡充、うつ病などの早期発見の体制づくり 集団健診や母子健診、高齢者介護サービス利用時など様々な機会をとらえてストレスチェックを実施し、心の不調を早期発見します。 また、一般医と精神科医によるうつ病の症例検討会を開催し、一般医から精神科医への患者引継ぎを円滑化する連携を強化します。</p> | | <p>〔成果等〕 目標を達成しました。 全市町の集団健診時等にストレスチェックを実施するとともに、福井労働局と協力して県内企業に従業員のストレスチェックの実施を働きかけ、心の不調の早期発見に努めました。 また、県下4地区(二次医療圏)で一般医等を対象にしたうつ病の症例検討会を開催し、かかりつけ医の段階でうつ病患者を早期に発見し、精神科へ円滑に引き継ぐ体制づくりを進めました。</p> | |
| <p>〔精神科医との連携を新たに始めた一般医の数 100人〕</p> | | <p>〔精神科医との連携を新たに始めた一般医の数 127人〕</p> | |
| <p>・「笑い」による健康づくり 女性落語などと連携して、関西大学と共同で笑い講「こころとからだのヘルスケア」を開催し、「笑い」を取り入れた健康づくりや健康面への効能を普及啓発します。また、落語愛好者を「笑いの講師」として、医療施設や福祉施設へ派遣します。</p> | | <p>〔成果等〕 目標を達成しました。 関西大学と共同で、女性落語家が出演する「関大ふくい笑い講」を開催し、「笑い」を活かした健康づくりの普及啓発を行いました。 さらに、女性の落語愛好者や関西大学落語研究会の学生を「笑いの講師」として、福祉施設や医療施設へ派遣しました。(嶺北3施設、嶺南2施設の計5回)</p> | |
| <p>・「8020運動」の推進 生涯にわたって健康な歯を持ち続けられるよう、歯科健診の定着を推進します。また、各地域で健口(けんこう)講話、歯磨き指導の出前講座を開催します。</p> | | <p>〔成果等〕 目標を達成しました。 県内の272の医療機関で「おとなの無料歯科健診」、「妊産婦歯科健診」を実施し、歯や口の衛生に関する意識向上と歯科健診の普及啓発を行いました。 また、公民館や児童館で、歯磨き指導や歯の健康に関する出前講座を開催しました。さらに、幼稚園や保育園でフッ素洗口の指導を行い、歯の健康づくりを啓発しました。</p> | |
| <p>〔歯科健診の受診者数 2,000人 (平成22年度2,340人)〕</p> | | <p>〔歯科健診の受診者数 2,497人〕</p> | |

平成23年度 政策合意項目に係る実施結果報告(健康福祉部)
(平成24年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要のあるもの)

| 役職 | 健康福祉部長 | 氏名 | 小林 正明 |
|--|--------|--|-------|
| 項 目 | | 実 施 結 果 | |
| <p>・「ふくい在宅あんしんネット」づくりの拡大【共同研究】 住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、病院から在宅への円滑な移行や医療・介護スタッフの関係づくりなどを進める地区を増やします。 また、東京大学と共同で、住民への在宅医療の普及啓発手法や訪問看護等の在宅ケア体制の充実策など、将来モデルの実証研究を行い、全国モデルとなる新政策に繋がります。</p> | | <p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> | |
| | | <p>地区医師会等を調整役とした在宅医療チームづくりについて、9月から新たに福井第一医師会地区を含めて進めました。 また、東京大学と共同で、在宅医療の将来モデルを検討するワーキングを開催し、住民への在宅医療の普及啓発イベント(9月、2月)や在宅患者の一時預かり病床の試行運用(将来モデルの実証研究)(10月～3月)を実施しました。</p> | |
| <p>在宅医療チームへの登録医師数 (平成22年度 158人) 170人</p> <p>在宅医療の利用者数 (平成22年度 3,087人) 3,200人</p> | | <p>在宅医療チームへの登録医師数 170人</p> <p>在宅医療の利用者数 3,434人</p> | |
| <p>・認知症を理解しあたたかく見守る環境づくり 認知症を正しく理解し認知症高齢者との接し方や対応方法を身につけた認知症サポーターを引き続き養成し増やしていきます。 また、認知症の早期発見、早期治療の徹底や重度化の防止に向け、全国初の取組みとなる「定年齢での認知症検診」の導入を目指して、専門家の意見を取り入れながら、来年度から実施するモデル事業の準備を行います。</p> | | <p>〔成果等〕 目標を上回って達成しました。</p> | |
| | | <p>各市町に認知症サポーター養成講座の開催を働きかけて講座開催数を増やすとともに、受講者が数市町にまたがる場合は、県が講座開催をサポートし、認知症の理解普及に努めました。 また、定年齢認知症検診の導入を目指し、検討部会を4回開催して具体的な仕組みづくりを進めるとともに、来年度からのモデル事業実施に向け市町への説明等を行いました。</p> | |
| <p>認知症サポーター養成数 30,500人 (平成22年度末 26,088人)</p> | | <p>認知症サポーター養成数 33,113人</p> | |

平成23年度 政策合意項目に係る実施結果報告(健康福祉部)
(平成24年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例: 成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例: 成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例: 成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例: 成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例: 成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

| 役職 | 健康福祉部長 | 氏名 | 小林 正明 |
|--|--------|---|-------|
| 項 目 | | 実 施 結 果 | |
| <p>◇ 「一役を分担」の地域活動</p> <p>・日常的に生活支援が必要な方を地域で支える体制づくり</p> <p>地域住民による「見守りネットワーク」の結成を促進し、高齢者等の支援が必要な方に対し日常的に声かけや安否確認を行います。また、弁当配達や外出支援などの日常生活を支える活動の立上げや、地域住民の居場所としての地域サロンの設置などを支援します。</p> <p>さらに、これらの活動を支える人材の育成を行い、地域住民による支え合いの体制づくりを進めます。</p> | | <p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>市町が行う「見守り」のための要支援者情報の把握や住民説明会など「ネットワーク」結成のための事業を支援し、県下全域での体制づくりを推進しました。</p> <p>また、NPO法人や市町の施設整備、設備整備を支援し、地域住民の交流の場(地域サロン)づくり、食事・移動・買物といった日常生活の支援活動の立ち上げや拡充を行いました。</p> <p>支え合い活動のための人材については、意識啓発のため「ふくいつながりフェスタ2011」を11月に開催するとともに研修カリキュラムの作成や指導者を養成しました。今後は人材を育成するため、県下全域で県民の方を対象とした研修を行っていきます。</p> | |
| <p>「見守りネットワーク」の結成数 135</p> <p>日常生活支援活動を行う組織数 50</p> | | <p>「見守りネットワーク」の結成数 193</p> <p>日常生活支援活動を行う組織数 120</p> <p>新規取組組織数 55</p> <p>既存事業拡大組織数 65</p> | |
| <p>・福祉ボランティアの活動機会の拡大【部局連携】</p> <p>「ボランティア・カフェ」および「福縁ボランティアネット」を活用して、地域での支え合い活動とボランティアとのマッチングを支援します。また、見守り活動の必要性について理解を深めるボランティア研修会やイベントを開催し、アクティブシニア層を含めた福祉ボランティアを増やします。</p> | | <p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>県内ボランティア関連情報を「ボランティア・カフェ」および「福縁ボランティアネット」において一元的に収集・発信し、ボランティア活動をしたい個人やグループとボランティアを募集したい施設・団体等とのマッチングを支援しました。</p> <p>また、「ボランティア・カフェ」において体験講座やボランティア作文コンクールの作品展示など、ボランティア活動の普及啓発も行いました。</p> | |
| <p>過去1年間にボランティア活動に参加した人の割合 60%以上 (平成22年度 59.6%)</p> <p>(うち高齢者(65歳以上)のボランティア行動者率 65%以上 (平成22年度 63%)</p> | | <p>過去1年間にボランティア活動に参加した人の割合 61.1%</p> <p>(うち高齢者(65歳以上)のボランティア行動者率 65.4%)</p> | |

平成23年度 政策合意項目に係る実施結果報告(健康福祉部)
(平成24年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

| 役職 | 健康福祉部長 | 氏名 | 小林 正明 |
|--|--------|---|-------|
| 項 目 | | 実 施 結 果 | |
| <p>◇自立を基本に頼れる福祉 ・在宅と施設のバランスにより「待機者ゼロ県」を再継続 高齢者ができる限り住み慣れた地域で安心して生活できるよう、在宅での医療や介護サービスを充実します。 また、在宅での生活の継続が困難な方に対して、必要となる施設の整備を計画的に進めます。</p> | | <p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>「ふくい在宅あんしんネット」、ジェロントロジー共同研究による在宅での医療と介護の連携推進や、在宅介護サービス事業者の開設支援、在宅療養支援病床のモデル事業やショートステイの充実による在宅介護者の負担軽減などを進め、在宅環境を充実しました。 一方、在宅での生活継続が困難な方のために特別養護老人ホーム等の介護施設を計画的に整備しました。 このような在宅と施設のバランスを考慮した対応により、「待機者ゼロ」を再継続しました。</p> | |
| <p>〔在宅介護サービス利用者の割合 74% (平成22年度 73.6%)〕</p> <p>〔ショートステイ整備数(累計) 944床 (平成22年度末 914床)〕</p> <p>〔介護5施設整備数(累計) 10,343床 (平成22年度末 9,993床)〕</p> | | <p>〔在宅介護サービス利用者の割合 75.4% (介護保険3施設以外)〕</p> <p>〔ショートステイ整備数(累計) 984床〕</p> <p>〔介護5施設整備数(累計) 10,383床〕</p> | |
| <p>・ふくいの高齢者の新しい住まい方の検討【部局連携】 高齢者のみの世帯や要介護高齢者の急増が見込まれることから、課題解決プロジェクトチームを設け、高齢者の住まいや生活支援、高齢者が住みたくなるまちづくりといった視点から高齢者の暮らしに総合的にアプローチし、新しい住まい方を提案します。</p> | | <p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>ゆとり(=広さ)があり、高齢者にやさしいなどの特徴を持つ良質な住宅を持ち、地域の支え合いの中で暮らしていくことを「福井らしい住まい方」と捉え、その実現を目指していくこととし、改定する「福井県老人福祉計画および福井県介護保険事業支援計画」および「福井県住宅・宅地マスタープラン(福井県高齢者居住安定確保計画)」に反映しました。</p> | |
| <p>・介護人材の確保 働きながら介護の資格が取得できる介護雇用プログラムや身近な地域での就職面接会等により、介護分野への新たな人材の雇用を促進します。 また、介護職員処遇改善交付金を活用した給与水準の向上など、処遇改善を通じて介護職員の職場定着を支援します。</p> | | <p>〔成果等〕 目標を上回って達成しました。</p> <p>介護雇用プログラムや求職者に身近な地域での就職面接会、職業訓練等を実施したほか、県福祉人材センター(福祉人材無料職業紹介所)に専門員を配置して求職者と求人事業所のマッチング機能を高めるなど、未経験者や潜在的有資格者を含めた多様な人材の確保に努めました。 また、介護職員処遇改善交付金による給与アップや事業所への出張研修の実施など、介護職員の処遇改善を通じて職場定着を支援しました。</p> | |
| <p>〔介護分野への新たな就業者数 900人〕</p> | | <p>〔介護分野への新たな就業者数 983人〕</p> | |

平成23年度 政策合意項目に係る実施結果報告(健康福祉部)
(平成24年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要のあるもの)

| 役職 | 健康福祉部長 | 氏名 | 小林 正明 |
|--|--------|--|-------|
| 項 目 | | 実 施 結 果 | |
| <p>・障害者施設賃金の更なる向上 最低賃金が適用される事業所(A型)の開設を希望する企業等にアドバイザーを派遣して新規参入を促進し、事業所で働く障害者を増やします。また、最低賃金が適用されない事業所(B型)についても、作業効率の向上や新たな商品開発を進め、賃金をさらに高めます。</p> <p>〔A型事業所で働く障害者数 620人 (平成22年度 577人)〕</p> <p>〔B型事業所障害者賃金(月額) 18,400円 (平成21年度 16,621円、平成22年度 17,928円) <全国1位>〕</p> | | <p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>A型事業所の開設を希望する企業に参入促進アドバイザーを派遣して開設を支援し、障害者のA型事業所への就労を進めました。また、B型事業所に商品開発・作業向上アドバイザーを派遣し、新商品の開発や作業効率の向上による経営改善を支援し、障害者の賃金アップを推進しました。</p> <p>〔A型事業所で働く障害者数 755人〕</p> <p>〔B型事業所障害者賃金(月額) 見込値 18,487円〕</p> | |
| <p>・障害者スポーツに親しめる環境整備 平成30年に開催される「全国障害者スポーツ大会」に向けて、スポーツサークルの育成やスポーツ体験教室の開催、指導者の養成などを障害者関係団体等と連携しながら行うことにより、スポーツを通じた障害者の社会参加を促進します。</p> <p>〔育成・強化する障害者スポーツの団体競技数 7競技 (平成22年度末 1競技)〕</p> | | <p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>これまで活動のなかった団体競技6競技のスポーツ体験教室を開催し、競技に親しむ機会をつくりました。また、競技指導者向け講習会を開催し、障害者スポーツに関する理解を深めるとともに、障害者スポーツサークルの活動を支援し、障害者スポーツに親しむ環境づくりを行いました。</p> <p>〔育成・強化する障害者スポーツの団体競技数 7競技〕</p> | |
| <p>・「みんなにやさしいまちづくり」の推進 【部局連携】 施設のバリアフリー整備状況がよくわかる新たな評価制度を設けます。また、バリアフリーのまちづくりに障害者などの当事者が参画する仕組みをつくり、障害者を含むすべての人にやさしいまちづくりを推進します。</p> | | <p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>障害者や事業者などの関係者が参画した検討会で協議を重ね、施設のバリアフリー整備状況を段階的に評価し、利用者に分かりやすい新たな表示制度を創設しました。平成24年度から運用します。</p> <p>また、福井市中心部の公共交通機関や道路、施設のバリアフリー整備状況について、障害者や事業者も参加した調査を実施し、改善策をとりまとめました。</p> | |

平成23年度 政策合意項目に係る実施結果報告(健康福祉部)
(平成24年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

| 役職 | 健康福祉部長 | 氏名 | 小林 正明 |
|--|--------|---|-------|
| 項 目 | | 実 施 結 果 | |
| 3 若者のチャレンジと女性の活躍を応援 ◇ 若者にチャレンジの場 ・縁結びの充実 婚活応援サイト「ふくい婚活カフェ」の携帯電話版の新設など利便性を高め、県・市町の結婚支援情報や県内の縁結びスポット、婚活へのアドバイスなどを発信するとともに、事業所間の独身者グループの交流の場を提供するなど、若者の出会いを一層支援します また、結婚相談員に加えて、地域で自発的な縁結び活動を行う人たち(地域の縁結びさん)の登録を進め、地域での縁結び活動を活発化します。 | | [成果等] 目標を達成しました。 | |
| | | 婚活応援ポータルサイト「婚活カフェ」の携帯電話版の新設に併せて、婚活のアドバイスや縁結びスポットなどを配信するとともに、独身者のグループの登録方法を改善し、利用者の利便性を高めました。現在、45の企業の独身者グループが登録し、交流を深めています。 また、共通の趣味を持ち年間を通して活動する若者グループを募集し、10のグループの活動を支援しました。 さらに、19人が登録して「地域の縁結びさん」と200人の結婚相談員による縁結び活動を行い、54組の方が結婚しました。 | |
| (出会い・交流イベント参加人数 (平成22年度3,537人) 3,600人 結婚相談員、縁結びさんを介したお見合い実施回数 (平成22年度1,093回) 1,100回 【チャレンジ目標 1,200回】) | | (出会い・交流イベント参加人数 3,791人 結婚相談員、縁結びさんを介したお見合い実施回数 1,222回) | |
| ◇ 子どもがたくさん、家族を応援 ・「元気な子ども・子育て応援計画」に基づく子育て支援サービスの実施 小学校3年生までの医療費助成や病児デイケア、すみずみ子育てサポート(一時預かり)などのきめ細かな子育て支援を着実に推進します。また、保育料などを原則無料とする「ふくい3人っ子応援プロジェクト」により、3人以上の子どもがいる家庭の経済的負担を軽減します。 さらに、子育てマイスターの活動の場を増やし、地域で子育て中の親をサポートします。 | | [成果等] 目標を達成しました。 | |
| | | 小学校3年生までの医療費助成やすみずみ子育てサポート事業(一時預かり)などの県独自の子育て支援サービスを紹介した「平成23年度版ふくいの子育て応援ガイド」を6月に作成し、子育て中の家庭に配付し、利用を促進しました。 また、子どもが3人以上の世帯を支援する「ふくい3人っ子応援プロジェクト」により、子育て家庭の経済的負担を軽減しました。 さらに、子育てマイスターには約540の方が登録し、活動の中心である地域子育て支援センター(地域の子育て支援拠点施設)の他、児童館、公民館等で育児相談や情報提供のボランティア活動を行いました。 | |
| (すみずみ子育てサポート事業利用者数 (平成22年度48,266人) 48,500人 子育てマイスターによる子育て相談者数 (平成22年度18,431人) 19,000人) | | (すみずみ子育てサポート事業利用者数 48,941人 子育てマイスターによる子育て相談者数 19,032人) | |

平成23年度 政策合意項目に係る実施結果報告(健康福祉部)
(平成24年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

| 役職 | 健康福祉部長 | 氏名 | 小林 正明 |
|--|--------|--|-------|
| 項 目 | | 実 施 結 果 | |
| <p>・子育て環境の充実【部局連携】</p> <p>新たに「おはよう！からはじめる家族時間」運動や「親子遊び塾」などを実施して、家族とのふれあいや遊び体験の機会を充実し、「自ら育つ」子どもを応援する環境づくりを進めます。</p> <p>さらに、保育士・幼稚園教諭の指導力向上や親子・地域の子育て向上のための研修を実施します。</p> | | <p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> | |
| | | <p>「おはよう！からはじめる家族時間」運動啓発チラシ13,500枚およびポスター1,500枚を主に商工会議所連合会や民間保育園連盟などの県推進団体を通じて配布するとともに、新聞へのコラム掲載や関連事業の紹介を行いました。</p> <p>また、地域のまつりなど親子が集まるイベントや施設において、「親子遊び塾」を実施しました。</p> <p>さらに、保育士・幼稚園教諭対象に気になる子の支援や保護者支援、幼児教育のあり方などをテーマにした地域別研修会を実施しました。</p> | |
| <p>〔「親子遊び塾」参加者数 1,000人〕</p> <p>保育士・幼稚園教諭の指導力向上研修の参加者数 (平成22年度 1,160人) 1,200人</p> | | <p>〔「親子遊び塾」参加者数 1,160人〕</p> <p>保育士・幼稚園教諭の指導力向上研修の参加者数 1,320人</p> | |
| <p>4 日本一の安全・安心（治安向上から治安実感へ）</p> <p>◇ 地震・異常気象・災害などに迅速に対応</p> <p>・災害医療体制の充実</p> <p>東日本大震災を踏まえて、学識者などで構成する検討会を開催し災害時の医療提供体制の再検討を進めます。また、被ばく医療体制の検討やDMAT（※1）の増加、SCU（※2）の整備などを進め、災害急性期に迅速に対応できる体制を整えます。</p> <p>※1 DMAT：災害派遣医療チーム ※2 SCU：県外に重傷者を搬送するために福井空港に設置する臨時医療施設</p> | | <p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>福井県地域防災計画地震・津波対策検討委員会およびWGに参加し、災害時における医療提供体制等について検討を進めました。今後、地域防災計画等の具体的な見直しを進めます。</p> <p>また、福島ของ事故の際に現地で活動した医師等で構成する「原子力災害医療体制検討会」を設置し、本県における原子力災害時の医療体制について検討を進めました。</p> <p>さらに、災害拠点病院が保有するDMAT全16チームに医療資機材を整備するとともに、福井空港にSCUの資機材を備蓄し、DMAT活動の必要設備を整えました。</p> | |